WEP

VOL. 123
ウエップ
俳句通信

# 俳句通信

特別作品25句　菅野孝夫「アディショナルタイム」

鑑賞会　西池冬扇 第五句集『彼此』を読む
出席者　坊城俊樹・神野紗希

西池冬扇50句「鶏三度」

【円熟作家12句】
荒川心星「あをあをと」
小野寿子「縄文の風」
小川洋二「蜘蛛の囲」

【3人競詠20句】
根橋宏次「金魚玉」
萩野明子「雀らの声」
岩田由美「アリナミン」

●作品●増成栗人・松尾隆信・藤田千鶴子・宇屋明俊・中西夕紀・柴田鏡子・瀬戸清子・中村正幸・神田ひろみ・渡井恵子・若井新一・長島衣伊子・吉田千嘉子・木内　徹・山本一歩・大元祐子ほか

# 季節の中で ⑨

## 東京都・都立薬用植物園

俳諧無頼梅雨の雫に博たれけり

関 成美

西武拝島線東大和市駅に近く「東京都立薬用植物園」はある。すぐ傍を玉川上水から分水した野火止用水が川越藩松平家の菩提寺である平林寺へ向かって流れている。通称伊豆殿堀である。（現在は暗渠となっている）

附近一帯は畑と雑木林が混在し、青梅街道沿いの整然とした区画は新田開発の名残り。

一人吟行に持って来いの場所がこの植物園である。春夏秋冬、訪れる人を落胆させることはまずない。疲れた心も休めてくれる。

## アディショナルタイム

菅野孝夫

梅雨に入るすぐ物忘れするあたま

新じやがを茹でてもらつて熱く食ふ

朝からの雨の小止みに桜の実

鰊そば鳰の浮巣を眺めつつ

梅洗ふ蛇口の水の荒使ひ

民生委員枇杷を枝ごと置きて帰る

# 西池冬扇50句

## 鶏三度

オオルリを聴いたからには歩を伸ばす

ゲバ棒の地を撃つ響五月闇

蛍観に行かな夕飯そさくさと

躑躅紅催涙弾で目が痛い

傘の無いことが理由で梅雨に入る

石畳剝がして運び蝙蝠来

西池冬扇（にしいけ・とうせん）
昭和19年（1944）　4月29日大阪に生まれ東京で育つ
昭和45年（1970）　ひまわり俳句会　高井北杜に師事
昭和58年（1983）　橘俳句会　松本旭に師事
平成19年（2007）　ひまわり俳句会主宰代行
平成20年（2008）　ひまわり俳句会主宰継承
著書　句集『阿羅漢』『遍路』『8505』『碇星』
随筆『時空の座第1巻』『ごとばんさんの夢』『時空の座拾遺』
評論『俳句で読者を感動させるしくみ』『俳句の魔物』
『俳句表出論の試み』『「非情」の俳句』
『高浜虚子――未来への触手』

# 超結社句会／新12番勝負

前列右から草深氏、波戸岡氏、小川氏
後列右から星野氏、鈴木氏、藤本氏

ゲスト　小川美知子・草深昌子
鈴木直充・波戸岡旭

ホスト　星野高士・藤本美和子

**高士**　超結社句会第57回目の句会です。久々の句会です。本日のゲストは「栞」同人の小川美知子さん、「青草」主宰の草深昌子さん、「春燈」同人の鈴木直充さん、「天頂」主宰の波戸岡旭さん。忌憚のないご意見をお願いいたします。さっそく、はじめます。今日は3点句が6つあります。

日焼して仲見世裏に紛れけり　小昌美

女性3人が採っています。

**昌子**　「仲見世裏」が「日焼け」を想像させる力があると思いました。

**美知子**　日焼けして紛れる、がそういうこともありそうで、面白いと思いました。

**美和子**　「仲見世裏」という場所の設定がどこまで面白いのか、というところだと思います。裏に紛れた、と言う意表をついた面白さなのかな、と思いました。

**旭**　「日焼けして」が間延びしているんです。「……して」で時間が経ちすぎているんです。「……して」で頂けな